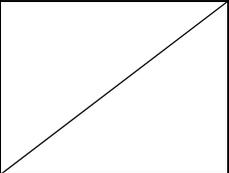


聞こえにくい状況に気付き、克服するための方法を考える学習					
学校種	聴覚支援学校	学年	高等部 2年	障がい種	聴覚障がい
対象の児童生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左：補聴器 右：人工内耳 (R3. 11～)</li> <li>・相手と対面し口形が見える状況であれば、口頭でのやりとりが可能。手話や指文字も不自由なく使用できる。</li> <li>・人とかかわることを好み、積極的にコミュニケーションを取ろうとする。</li> <li>・確認不足などところがあり、忘れ物ややるべきことを忘れてしまうことがある。</li> <li>・大学へ進学し、聞こえる人の中で生活したり働いたりすることを希望している</li> </ul>				
短期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験につながる体験を通して、知識とつなげることができる。</li> </ul>				
必要な項目の選定 (6区分27項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係の形成 (3) 自己の理解と行動の調整</li> <li>・環境の把握 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動</li> <li>・身体の動き (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行</li> <li>・コミュニケーション (2) 言語の受容と表出</li> </ul> <p>※ これらの内容を関連付けて指導内容を設定した。</p>				
具体的な指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の姿をイメージし、生活の中で感じる(予想される)自分の得意不得意なことに気付き、得意なことを伸ばしたり苦手を克服したりする。</li> </ul>				
単元(題材)名	『職場体験実習と実習時のコミュニケーションについて』	指導形態	個別		
単元(題材)の目標	社会生活の中で、自分が入手できている情報と、できていない情報があることに気付き、どう対応すればよいかを考えることができる。				
単元(題材)の計画	1 働くこと・興味のある仕事について 2 実習先と実習打ち合わせについて 3 実習の目標、実習日誌の書き方、帰宅報告について 4 実習の振り返り 5 実習報告会準備・報告会		1 時間 1 時間 1 時間 3 時間 (本時) 2 時間		
指導の実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験実習を振り返り、聞き取りやすかった状況とその理由、聞き取りにくかった状況とその理由を整理した。</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校以外の場面で起こり得る聞こえにくい状況に気付き、改善策を考えた。</li> </ul>				
		状況	理由	改善策	
	聞き取りやすい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1対1で話したり指示を受けたりした。</li> <li>・ジェスチャーをつけて話してくれた。</li> <li>・やり方を見せてもらった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・距離が近い。</li> <li>・はっきりした。</li> <li>・大きな声</li> <li>・口の形が見える。</li> <li>・正面から見える。</li> </ul>		
	聞き取りにくい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼が広い場所で、大勢で行われた。</li> <li>・急に(予想していない時)に指名された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスクを付けたまま話している。</li> <li>・声が小さくて聞き取れない。</li> <li>・口をあまり動かさないで話す。</li> <li>・距離が遠い。</li> <li>・誰が話しているかが分かりにくい。</li> <li>・専門的な言葉が多い。</li> <li>・前後の話が分からなかった。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて会う人にも自分を正しく理解してもらうために、卒業まで更新していく自己紹介文を作った。</li> </ul>				
	